厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
（総括・分担）研究報告書

聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究

研究分担者　堀内　伊吹　長崎大学　教育学部教授

研究要旨
CQ CQⅣ-3「音楽療法は人工内耳装用児の音声言語獲得に有効か」について先行研究を調査した。複数の研究における具体的成果をエビデンスレベルに基づき検討し、人工内耳装用児の音声言語獲得を促進する療育方法として、音楽療法が有効であると結論づけた。

A．研究目的
CQⅣ-3「音楽療法は人工内耳装用児の音声言語獲得に有効か」について先行研究をレビューし、エビデンスレベルに応じ見解をまとめる。

B．研究方法
システマティックレビュー(SR)の実施：
Pubmed、The Cochrane Library，医中誌Webを対象に先行研究を検索した。
その後、Pubmedに焦点を絞り、
検索式：(“Cochlear Implant*” OR ”Hearing Loss”[Mesh]) AND (”music therapy” OR ”music training” OR ”music appreciation” OR ”music perception”)で検索し、264件(Best match)の先行研究を抽出した。
(2)第1次スクリーニングとして、タイトル、アブストラクトから12件を選択した。
(3)チームにおいて、第2次スクリーニングを行いアブストラクト・テーブル作成とエビデンス評価を行なった。

ガイドラインの作成：
SRの結果をもとに見解をまとめ、ガイドラインへの記載文章を作成した　。

C．研究結果
人工内耳装用児への音楽療法により、
（1）　音楽の知覚や情動プロソディ知覚の向上
（2）　音声言語習得速度の向上が複数の研究で報告されていることから、人工内耳装用児の音声言語獲得を促進する療育方法として、音楽療法を推奨する。

D．考察
音楽療法の最適な提供方法については今後の成果が待たれる。なお国内においては、音楽療法士（Music Therapist）の資格制度が確立されていないことから、必要とする患児に音楽療法を提供する環境整備に課題がある。

E．結論
人工内耳装用児の音声言語獲得を促進する療育方法として、音楽療法を推奨する。

F．健康危険情報
該当なし

G．研究発表
1.　論文発表
該当なし
2.　学会発表
該当なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1．特許取得
該当なし

2．実用新案登録
該当なし

3.その他
該当なし